

## 財政通信 No.32

「ご相談したいことがあるんですけど。」「今からお時間いただいて宜しいですか。」そんな電話がちらほら掛かってくるこの季節。

「人気者はつらいよ」とか、「モテ期到来か？」とか軽口を叩いていると、後頭部に突き刺さる、家長の手 $\Rightarrow$ アコちゃん(5さい)のお叱りの言葉。「勘違いしてんじゃねーよ！」。

へーへー。どーせあたしのところに来る相談なんて、「お金がない」とか、「お金が足りない」と相場が決まってるもんね。

風が冷たくなるとともに心もヤサグれていく今日この頃。

そうそう、申し遅れました。今回の担当は、財政課出戻り10年目のTです。

### 【平成29年度決算のポイント】

『平成29年度 龍ヶ崎市決算の状況』はお読みいただけましたでしょうか？「いろいろ書いてあって、よくわからない！」というアナタに、「ここに注目！」というポイントをこっそり？教えちゃいます。

#### ①収支

東日本大震災にかかる国の財政出動を中心に、平成22年度から続いた実質単年度収支の黒字、つまり、毎年黒字が上積みされていく状態、は平成27年度で終了し、平成28・29年度はその年度の収入と支出がトントンの均衡状態となっています。

現在の財政状況は、安定してはいますが、ゆらゆら揺れながらバランスを保っているヤジロベエのようです。今後どちらに傾くかは風向き次第。強い風にさらされて転落してしまわないよう、歳入減少や歳出増大などによる揺れ幅を注意深く観察あるいはコントロールしていく必要があります。

今後の実質単年度収支の状況にご注目ください。

#### ②基金(市の貯金)

平成29年度における基金残高で注目すべきは、特定目的基金の残高が前年度より1億5000万円減少した点です。

先に、平成29年度は、その年度の収入と支出がトントンの均衡状態と説明しましたが、収入の不足分を特定目的基金で穴埋めして均衡を保ったとも言えます。

もちろん、特定目的基金は事業に活用することを目的として積み立てた貯金ですから、目的に沿った事業への活用は問題ありませんが、貯金を使わずに済ませればそれに越したことはありません。

今後、いくつかの大型事業や施設の改修が予定されていますから、その時までなるべく多くの額を取っておきたいのは山々です。

逆に、財政調整基金や減債基金の取り崩しは、赤字補てんの側面が強いため、要注意です。

平成29年度は、当初予算で7億2600万円の歳入不足分を計上していましたが、最終的には、財政調整基金と減債基金は取り崩さずに済みました。回避できるか最後まで分からず、かなりハラハラドキドキの展開。

平成30年度も、6億2000万円の財政調整基金・減債基金の繰入額に対して、9月補正で戻せた

のは2億円。果たして、残り4億2000万円を戻せるのか。皆さんの歳入確保と歳出抑制の努力にかかっています。

財政調整基金や減債基金の取り崩しも、単年度だけならば黄信号で済みますが、それが常態化すると赤信号です。歳入に対して歳出が過大なのは明らかですから、強制的にでも歳出を削減する必要が出てきます。

そんなことにならないよう、財政調整基金や減債基金を取り崩すことなく、特定目的基金を上手に活用しながら、財政運営を行うことが求められます。

基金現在高の状況、特に、財政調整基金や減債基金の取り崩し(基金繰入金)には注目していただきます。

### 【契約・会計・財政3課合同研修会】

平成29年度から始まった、契約と財務の合同研修会。

昨年度とは若干趣向を変えて、若手の職員を意識した、基礎的な内容にしてみました。存外によくの職員の皆様にご参加いただきました。

なお、平成29年度の決算では、前年度と比較して、訂正しなければならない伝票が激減しました。

伝票を起票している各担当職員の皆様、毎月チェックシートで早期の発見に努めていただいております管理職の皆様、この場を借りまして、心よりお礼申し上げますとともに、今後共ご協力をお願いする次第です。

ちなみに、平成31年度も開催する予定？です。奮ってのご参加、重ねてお願いいたします。

### 【財政収支見通し・中期事業計画】

まだ残暑厳しい、9月初旬のある日。

アコちゃん:「ねーねー、オカムラT、財政収支見通しの担当って、だーれ？」

T:「はい、私です。」

アコちゃん:「じゃあさーあ、平成29年度の決算の内容反映させたら、どうなった？」

T:「まだやってません。」

アコちゃん:「ポーっと生きてんじゃねーよ！」

なんて会話のあった、1週間後。

T:「家長、できました。」

アコちゃん:「んで、どうなった？」

T:「平成40年まで、龍ヶ崎市は生き延びました。平成40年度末で累積収支不足額と基金残高の差は約10億円です。」

アコちゃん:「あれ、ちょっとよくなった？2月に公表した時は、平成39年度末で8億ちょっとじゃなかったっけ。」

T:「そうですね。平成30年2月時点での平成29年度決算見込と比べて、市税や地方消費税交付金、地方譲与税などの国からの交付金が増えた影響が大きいですかね。歳出合計も1億ほど減りましたし。あと、基金残高では、取り崩しを覚悟していた減債基金を維持できたことが大きいです。」

アコちゃん:「財政収支見通しは、直近の傾向が将来に反映されるから、とりあえず安定した決算を

打てたことが大きいかな。」

T:「アコちゃん、5さいなのにそんなことも知ってるなんて、すごいね。じゃなくて、お見込みのとおり。

ただ、中期事業計画主要事業は、2月公表時のままです。中期の要求内容を見ると、事業費の増えているのや新規事業がてんこ盛りな感じなんです。」

アコちゃん:「10億円って言っても、経常事業なら1年あたり1億円だもんね。建設事業も、起債を使えばその年の負担は少なくなるけど、後からもれなく返済がついてくるし。そうすると、あんまり余裕はないってことか。」

T:「実質単年度収支がほぼゼロで、今後歳入の大幅な増が見込めない状況では、歳出規模を今と同じくらいにやらせないと、あつと言う間に基金枯渇になっちゃいます。」

アコちゃん:「ま、そんなとこを頭に入れながら、この収支見通しをベースに中期事業計画の査定に臨もうか。」

そんなこんなで、中期事業計画の査定。

企画課の皆様と知恵を絞り、財政負担の平準化に気を付けながら、要求のあった事業を切ったり、貼ったり、削ったり、伸ばしたり。

そうしてできた『像』が、今回の中期事業計画の査定内容です。

あとは、平成31年度の予算編成をしながら、細部を手直ししていきます。

最終的な結果は、財政収支見通しとともに2月に公表予定です。乞うご期待？

以上、平成30年度前半の出来事についてお知らせしました。

いよいよ、財政課最大のイベント、平成31年度当初予算編成も、各課の入力が終了して、財政課にバトンタッチ。久しぶりに管財グループも巻き込んでの、予算査定が始まります。

来週早々には各課のヒアリング。その後、予算書が出来上がるまで、財政課の長い冬は続きます。

財政課の諸君、気合い入れて査定しないと、アコちゃん(5さい)に叱られちゃいますよ。「ポーっと査定してんじゃねーよ！」

Tでした。

※財政通信へのご意見・ご感想等お待ちしております。「5さいって書いて——！」。